

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

広島大学消化器・移植外科での国内外科研修を終えて

奈良県立医科大学消化器・総合外科

松尾 泰子

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度を用いて、2021年10月18日から10月29日までの2週間、広島大学消化器・移植外科教室での研修に参加させていただきました。研修を受け入れてくださいました大段秀樹教授をはじめ、広島大学消化器・移植外科の先生方には心より感謝申し上げます。

私は奈良県立医科大学消化器・総合外科に入局後、関連病院にて消化器外科としての研修を行い、現在は大学病院にて肝胆膵外科に専従して修練を行っております。これまでに他施設での研修は経験がなく、今回このような研修の機会をいただき、貴重な経験を得ることができました。広島大学消化器・移植外科を希望させていただいた理由としましては、広島大学は臨床・基礎研究の両面においても実績が多くアカデミックな教室というイメージがあり、そのような環境での診療や研究の考え方を少しでも学ぶことができればと思ったからです。

研修期間中、まず最初に驚いたことは、Microsoft Teamsをフル活用し連携されたチーム医療でした。カンファレンスも全てTeamsで施行されていましたが、Teamsでのweb会議であっても活発な意見交換が行われていました。主治医制ではなくその日の日直・当直医が責任を持って診療にあたられており、日中夜間の患者情報の共有も迅速にTeamsで行われていました。Teamsを開けばどこにいても患者の状況が把握でき、相談もできるような環境が整っており、チームで医療することがうまく機能している印象を受けました。忙しい中でも働き方改革に積極的に取り組み、on offをつけることでより良い医療を提供していくという姿勢が印象的でした。

もう1点驚いた点としては、非常に充実した研究設備でした。医局から連続して広い研究スペースが確保されており、別の研究棟に行かなくても動物実験以外はほぼ研究できる環境が整っていました。多くおられる大学院生もスタッフの先生方から丁寧に指導を受けられていました。週1回のモーニングカンファレンスにて大学院生の研究発表がありましたが、clinical questionや結果、今後の展開と論点が非常に明確であり、そのような考え方が普段の臨床診療の基礎となっていると感じました。

実際の研修に関しましては、私は肝臓外科を専門としており、肝切除を中心に勉強させていただきました。広島大学は肝細胞癌の症例数が全国トップクラスであり、肝硬変症例や複数回の手術歴のある肝切除など困難な症例に対しても積極的に取り組まれていました。実際に勉強させていただいた症例でも、複数回の手術歴があり高度の癒着剥離を要する症例や、病変の認識すら困難な症例もありました。再肝切除の癒着剥離は肝臓外科医にとって必ず求められる手技ですが、癒着剥離においてはいかに解剖を把握して操作をすすめていくか、また剥離時の緩急の付け方など、見学ではなく助手の立場で手術に入らせていただけたので間近で見えて理解することができました。大段教授の迅速かつ繊細な手術手技を間近で見せていただけたのも貴重な経験となりました。また、広島大学では超音波検査にて描出困難な病変に対し、MRI下肝切除を施行されていました。手術中の肝離断前後にMRIを撮影し病変を切除する方法で、大変な手術操作ではありますが実際にそのように切除した病変で8割以上に悪性所見を認めているとのことで、意義のある術式と思われました。他にも描出困難な病変に対して術前にIVR下にコイリングし切除するという方法も考案されており、癌に対しより積極的に治療を試みられている姿勢を感じました。

消化器・移植外科の先生方とともに2週間診療に携わらせていただきましたが、固執した考えではなく新しい方法を考え取り入れていく柔軟な姿勢や、困難な症例に対しても大学病院として最大限の治療を提供するという姿勢を強く感じました。手術手技だけではなくそのような考え方の重要性を改めて再認識できたことも、今回の研修で非常に勉強になった点と考えています。

また、今回の研修中には外科学教室の上村先生のもとでも膵切除を中心に手術見学をさせていただきました。突然のお願いとなりましたが、快く教えていただきました上村先生や教室の先生方にも感謝申し上げます。こちらの教室は教育的なシステムが印象的で、症例の難易度や場面ごとに執刀医を割り当て、若い先生にも執刀のチャンスを与えることでモチベーションを維持しながら経験を積める体制を作っておられました。同年代の先生が多くの手術経験を積んでおられたり、高度技能医を取得されていたりと、私にとっても非常に刺激になりました。

今回の研修で技術面はもちろんのこと、診療に対する姿勢や考え方など幅広く勉強させていただきました。自施設での修練だけでは得られなかった経験であり、この経験を今後の診療に活かしていきたいと思えます。

最後になりましたがこのような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめ、委員・スタッフの方々に心より御礼申し上げます。また、今回の研修に推薦していただきました当教室の庄教授はじめ、快く送り出していただいた当教室医局の先生方にもこの場を借りて感謝申し上げます。